KIORITZ

取 扱 説 明 書

iスタート

共立フリーネックエッジャー

FNE2310L
FNE2310L/600

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立フリーネックエッジャーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・このフリーネックエッジャーは、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付フリーネックエッジャーです。畦の水際などの雑草刈に使用してください。

・フリーネックエッジャーを改造してはいけません。

・整備不良のフリーネックエッジャーは、危険ですので使用しないでください。

本機の特徴 ； iスタート

・本機はエンジン始動時に iスタート 方式を採用していますので、スタータグリップを引いたときに大変軽く引くことができます。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので若干の換算誤差がある場合もあります。

・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。

・本製品は一部部品の組立作業が必要となります。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
梱包部品一覧 4
各部の名称 5
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　ループハンドルの組立 6
　刈刃ユニットの組立 6
　刈刃角度の調整 6
正しい作業のために 7
　作業者の体調 7
　保護具 8
操作方法 9
　燃料の取扱い 9
　エンジンの始動と停止 10
　基本的な作業方法 12
　作業上の注意 13
点検・整備 14
　整備の目安 14
　点検要領 14
　刈刃の手入れ 16
　キャブレタの調整 16
故障診断と対策 17
保管 17
　長期保管（30 日間以上）..... 17
仕様 18

警告表示マークの意味

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示マーク」のラベルが貼付してあります。ご使用前にマークの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

警告表示マーク

⚠ 警告



部品番号：P022-005440

作業中は、保護具を必ず着用すること。

ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること。

刈刃の角度を変えたり、刈刃にかみ込んだ切りくずなどを取除く場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。
作業時および点検整備時は皮製などの手袋を着用してください。



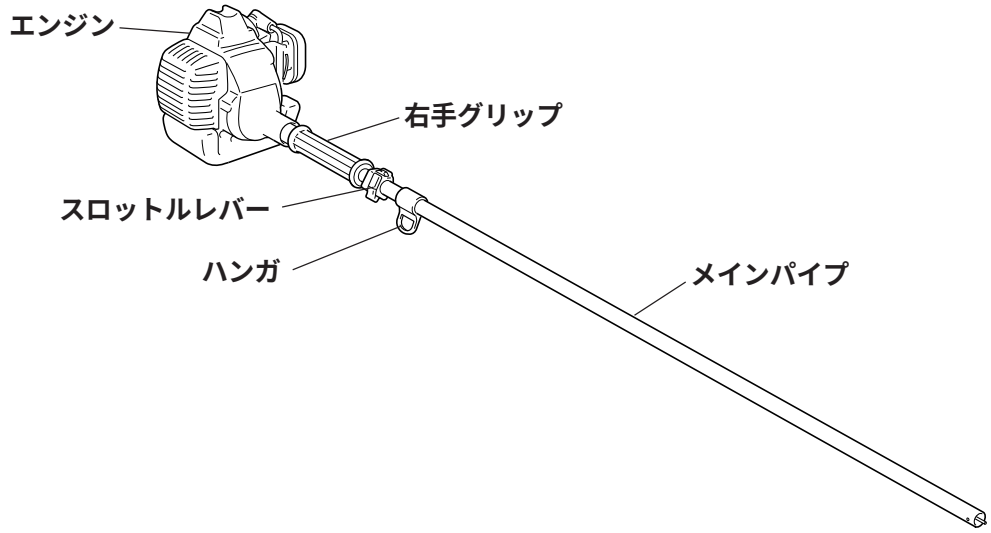
部品番号：890016-06411



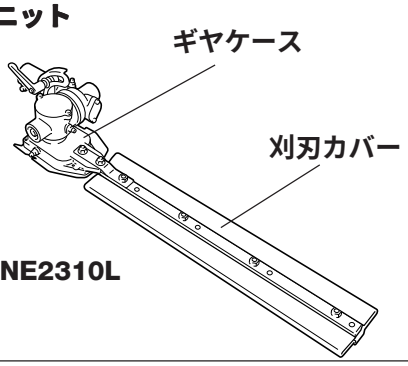
部品番号：890157-55630

梱包部品一覧

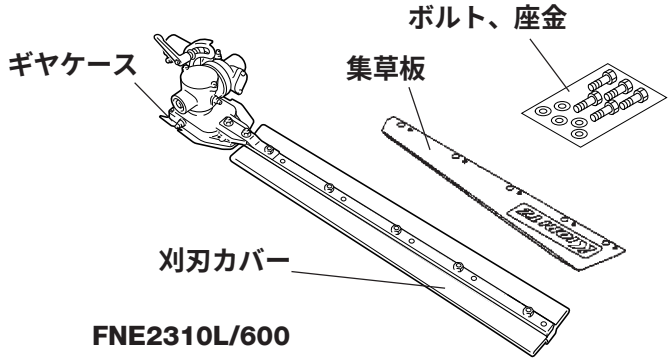
エンジンとメインパイプ



刈刃ユニット

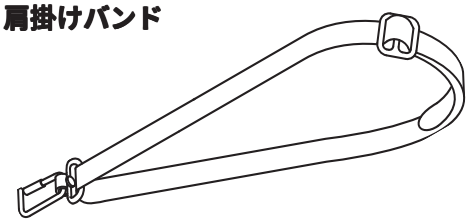


FNE2310L

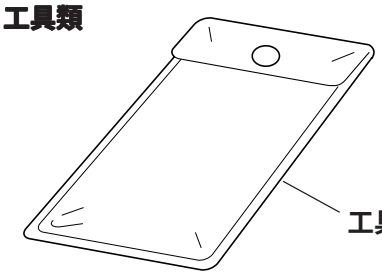


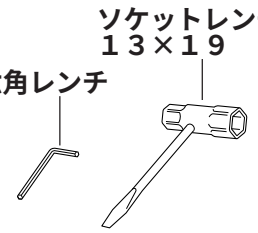
FNE2310L/600

肩掛けバンド

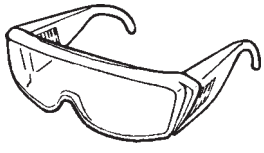


工具類

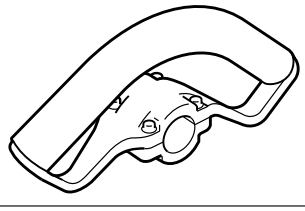




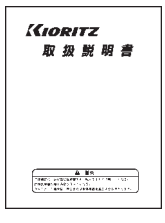
保護めがね
ＡＮＳＩ　Ｚ　８７．１に適合



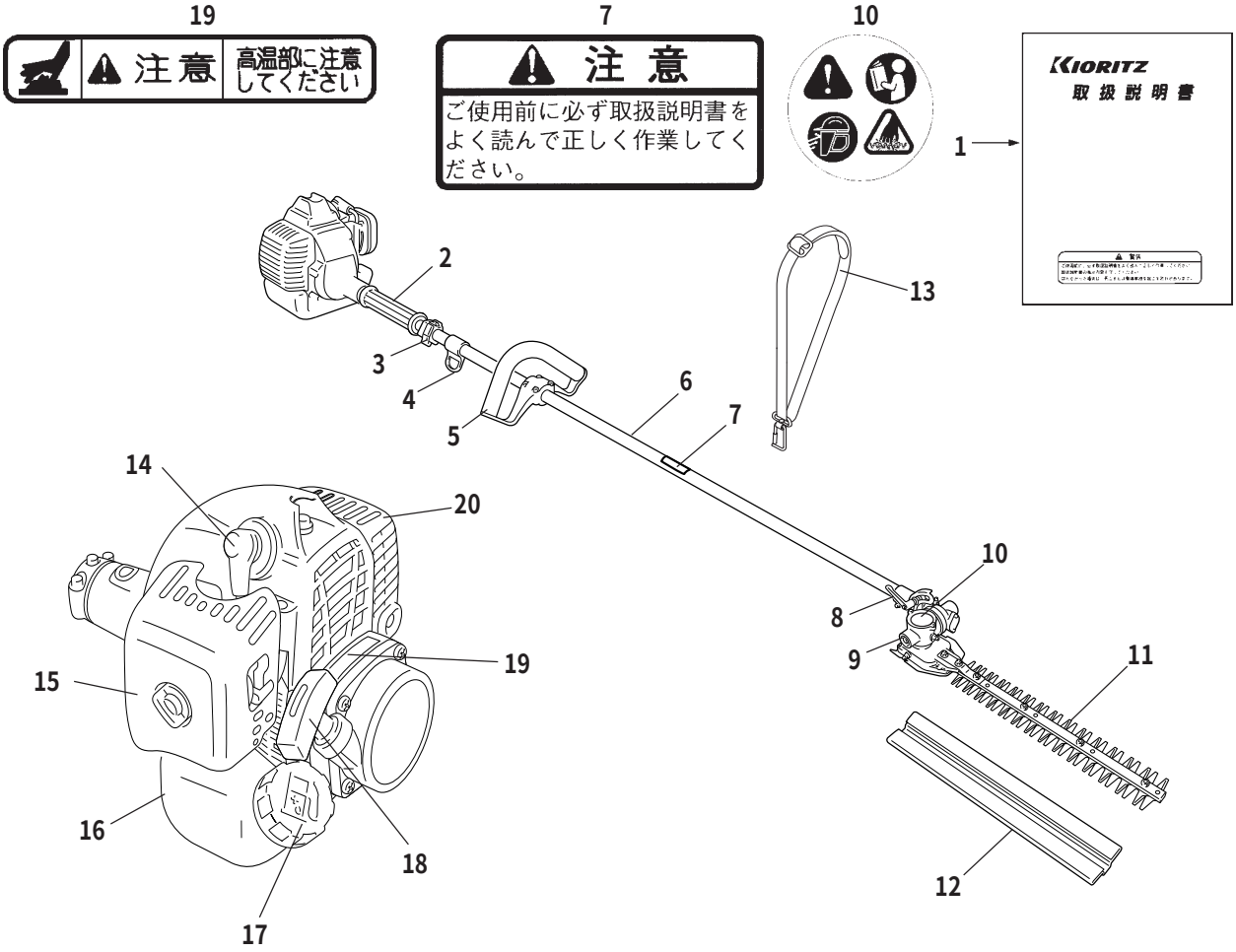
ループハンドル



取扱説明書
保証書



各 部 の 名 称



各部の名称とその機能

１．取扱説明書	― 機械をお求めになったとき必ず付属しています。機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２．右手グリップ	― 刈払い作業時、右手で握るグリップです。
３．スロットルレバー	― エンジン回転数を調節するためのレバーです。
４．ハンガ	― 肩掛けバンドの取付金具を掛けるためのものです。
５．ループハンドル	― 刈払い作業時、左手で握るハンドルです。
６．メインパイプ	― 駆動軸のケースの役割をしています。
７．注意ラベル	― 注意事項を示します。
８．刈刃固定レバー	― 刈刃角度調整時に操作します。
９．ギヤケース	― 動力を刈刃に伝達すると同時に、刈刃の取付部ともなります。
１０．警告表示ラベル	― ３ページの「警告表示マークの意味」を参照してください。
１１．刈刃	― 畦草の刈込みに使用する刈刃です。
１２．刈刃カバー	― 機械の持ち運び、保管をするときに使用するカバーです。
１３．肩掛けバンド	― 作業者の身長に合わせ長さの調節ができるバンドで､機械を吊り下げるのに使用します。
１４．スパークプラグ	― エンジンの頭部に組付けられ、シリンダ内の混合気に点火するものです。
１５．エアクリーナ	― エンジンに供給される空気をきれいにします。
１６．燃料タンク	― 燃料を入れる容器です。
１７．燃料タンクキャップ	― 燃料タンクを密封するふたです。
１８．スタータグリップ	― エンジンを始動するときに使用します。スタート
１９．注意ラベル	― 高温部に注意することを表わしています。
２０．マフラカバー	― 消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。

組　　立

⚠ 警告

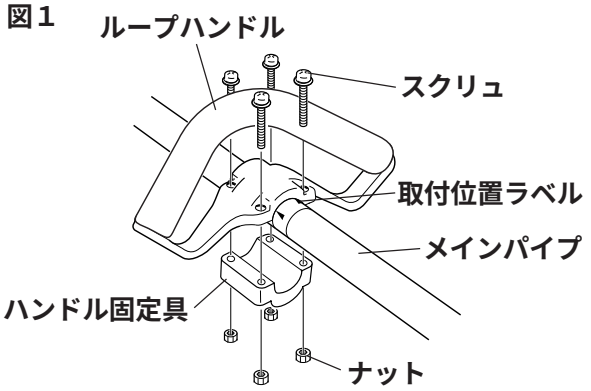
正しく組立ててください。誤って組立てたものを使用すると、死傷事故を起こす恐れがあります。

・フリーネックエッジャーを改造してはいけません。
・整備不良のフリーネックエッジャーは、危険ですので使用しないでください。

⚠ 注意

・組立の際には手袋をしてください。
不用意に刈刃に触れると、ケガをします。
・刈刃ユニットの組立や刈刃角度を調整するときは、刈刃カバーを刈刃に装着してください。

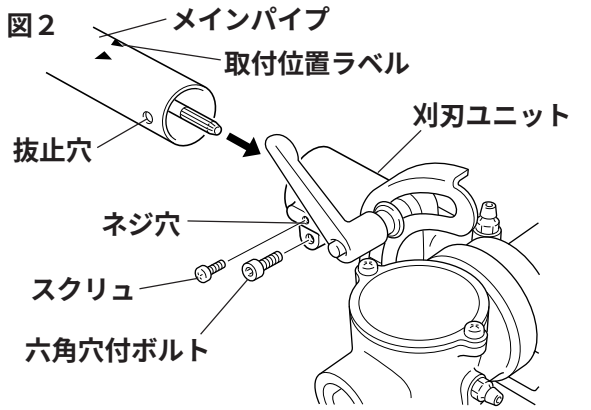
図１



ループハンドルの組立

1. 取付位置ラベルに合わせメインパイプをはさんで、ループハンドルとハンドル固定具をスクリュとナットでかるくとめてください。（図１参照）
2. ループハンドルを機械の操作がしやすい位置に調節してください。
3. スクリュとナットをしっかりと締めてください。

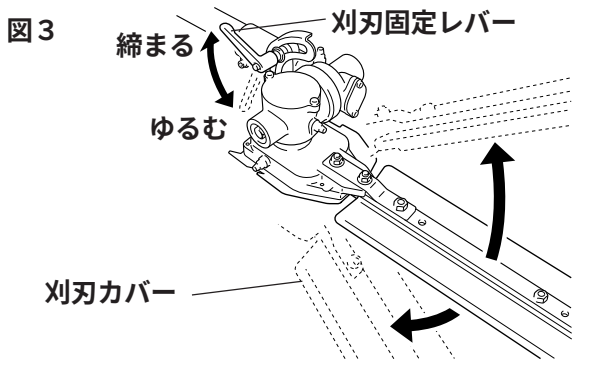
図２



刈刃ユニットの組立

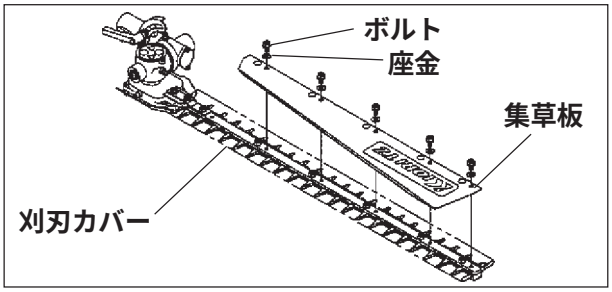
1. 刈刃ユニットのスクリュを取外し、六角穴付ボルトをゆるめます。
2. 刈刃ユニットと駆動軸の角度を意識しながら刈刃ユニットを左右に回し、メインパイプに向かって押し込みます。
3. メインパイプの抜止穴と刈刃ユニットのネジ穴が合うと、取付位置ラベルにも合うようになっています。（図２参照）
4. 抜止穴とネジ穴を合わせ、スクリュを締めます。
5. 六角穴付ボルトを付属の六角レンチでしっかりと締めて、刈刃ユニットを固定してください。

図３



刈刃角度の調整

1. 刈刃固定レバーをエンジン側に回してゆるめてください。
2. 刈刃を作業に適した角度に調整してから、刈刃固定レバーを刈刃側に回して締めてください。



集草板の取付け(FNE2310L/600 のみ)

付属のボルトと座金で取り付けてください。

⚠ 警告

エンジンを停止して、必ず刈刃はバーをつけて作業してください。事故や重症を負う原因となります。

正しい作業のために

⚠ 注意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。本機の知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

⚠ 注意

- 厚生労働省の通達により、一日の使用時間は２時間以内、連続作業時間はおおむね３０分以内にしてください。連続作業後には５分以上の休止時間を取ってください。
- 蜂に気をつけて作業してください。

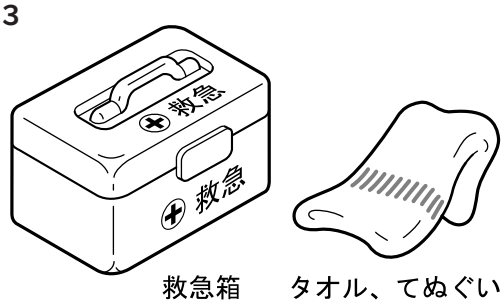
図１



図２

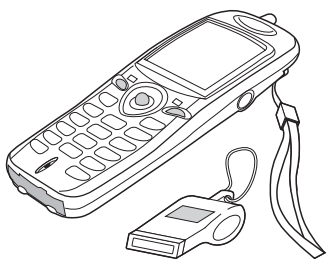


図３



救急箱　　タオル、てぬぐい

図４



作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、機械の使用中に疲れた場合は、作業を中断し休憩してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 身体を冷やさないようにしてください。
  特に手首や手指は保温に心掛けてください。

振動と冷え

機械を操作する人の体質によっては、指にレイノー症候群と呼ばれる症状が現われることがあります。これは振動と冷えにさらされることにより起こるとされており、指にチクチクとした痛みや、火傷のようなヒリヒリした痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなります。
症状の現われる限度が未解明であるため、特に頭部、首、脚、足首、手および手首は温かく保ってください。

反復作業による傷害

指や手、腕、肩の筋肉やすじを使いすぎると、その箇所にズキズキする痛みや腫れ、マヒ、衰弱、激痛が起こるとされています。手で、一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害の危険性が高くなります。定期的に休息を取ってください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
  また、外部との連絡用に携帯電話を所持することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

図１

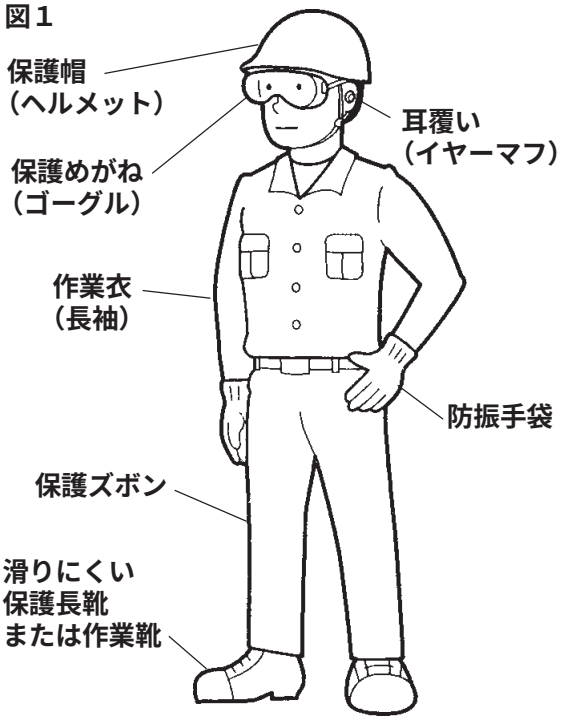


図２

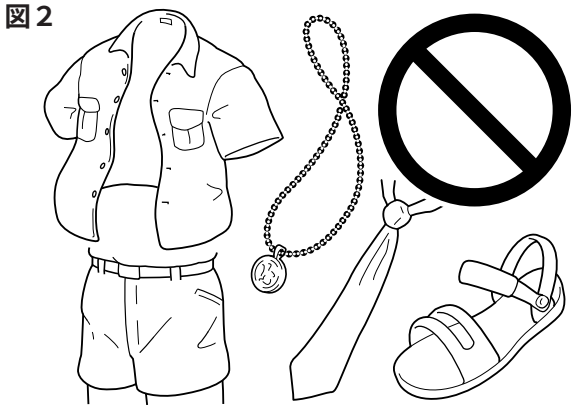
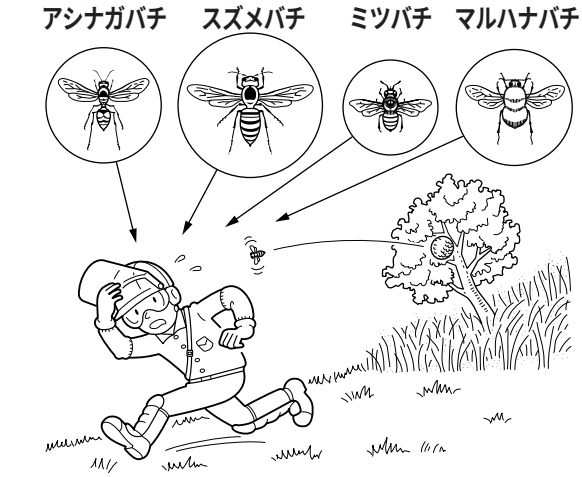


図３



保護具

身体を保護する衣服

身体に合った作業衣（長袖）を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、作業衣のすそはズボンに入れること。袖じまりを良くしてください。フリルや飾りヒモは機械や雑草に絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないこと。髪の毛は肩より上でまとめること。

目の保護

この機械を使用する人は、刈刃から飛んで来る物に対してだけでなく、空中のホコリや、種、花粉などから目を保護するため、保護めがね（ゴーグル）を付けなければなりません。
日常、めがねを使用している人も、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）を付けてください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。
耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

頭部の保護

頭上の木の枝や、落下物の危険性に対して、保護帽（ヘルメット）を使用し頭部を保護してください。

手の保護

防振手袋を着用してください。柔らかい革のものは、握りをより確実なものにできます。

脚全体の保護

滑りにくい丈夫な保護長靴か、滑りにくい作業靴を着用してください。つま先のあいた靴、サンダルやはだしで作業しないでください。

身体の保護のためのその他の事項

- 蜂が近づいて来たら、速やかに危険区域から遠ざかること。蜂は頭部や顔をねらって来るので、防蜂網は効果があります。特に蜂アレルギーの人は必ず着用し、防護手袋なども使用します。
- アレルギー性鼻炎（花粉症）などの症状が出やすい人は、薬局などで売っている使い捨ての防塵マスクを付け、アレルギーを起こす花粉などを極力吸い込まないようにしてください。

操　作　方　法

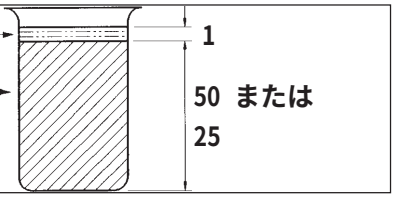
⚠ 警告

・引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に十分注意してください。
燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
・エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
・作業中、万一、エンジンから発火または発煙したら、まず、緊急離脱ピンを上に引き、機械を身体から離し、身体の安全を確保してください。
（１２ページ図１参照）

⚠ 注意

燃料を補給する際は燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図１



ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
４	８０	１６０
８	１６０	３２０
２０	４００	８００

図２

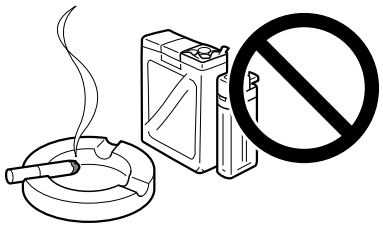
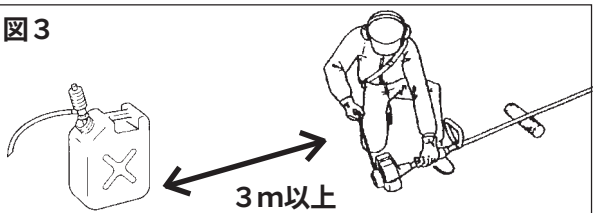


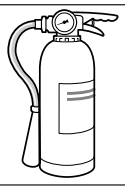
図３



燃料の補給は屋外で行なうこと

燃料補給地でエンジンを始動しないこと

図４



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重要

・混合燃料は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
・燃料タンク、燃料タンクキャップ、燃料タンクブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
・２サイクルエンジンオイルはＪＡＳＯ 性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種に分類され容器に表示しています。「ＦＡ」はＪＡＳＯ の旧規格で定められていました。やまびこ純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」です。

●本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクルエンジンオイルを混合した燃料を使用してください。正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。
●２サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。
ＦＣ、ＦＤ;[５０：１]
ＦＡ、ＦＢ;[２５：１]
●ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。
●燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。
燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて圧力差を取除いてください。
●燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。
屋内では燃料を補給しないでください。
●エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
●必ず規定レベル以下に補給してください。
●燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。
●補給用タンクは火気のない日陰に保管してください。
●エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。
●燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。
燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。
●自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

エンジンの始動と停止

⚠ 警告

- エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
- 機械を障害物のない地面に置き、刈刃が地面や他の物に触れないことを確認してください。
- 空中で始動したり、肩掛けバンドで吊ったまま始動しないでください。機械が思わぬ方向に動き、負傷することがあります。
- スロットルレバーを低速位置にしないでエンジンを始動すると、刈刃が動き始めます。
  エンジンの始動、停止時、作業を中断するとき、移動のときは、必ずスロットルレバーを低速の位置にしてください。

図１



⚠ 注意

- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- エンジンを始動する前に刈刃をチェックしてください。ヒビの入った刈刃、破損している刈刃は新品と交換してください。
- 燃料が漏れていないか確認してください。
  燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- 機械の周囲は十分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
- 機械は地面にしっかりと押え、始動してください。
- エンジンの始動時、スロットルレバーを低速の位置にしておいても、刈刃が動く場合には、１６ページを参照しながらキャブレタを再調整して使用してください。
- エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。

重要

- スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。

エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。エンジンの状態を確認の上、各々の始動の手順に従って始動してください。順序を間違えると始動が困難になる場合がありますので注意してください。

図１

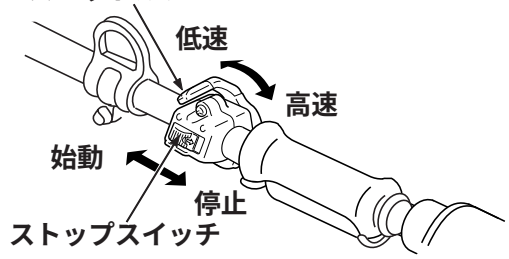
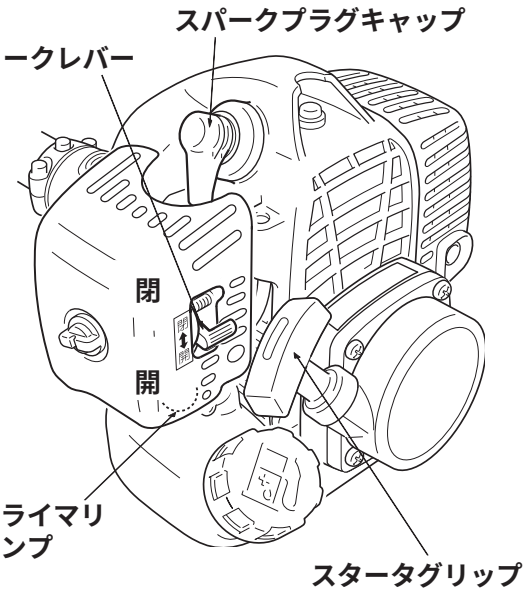


図２



冷えたエンジンの始動

1. スロットルレバーを低速の位置にし、ストップスイッチを始動の位置にします。（図１参照）
2. チョークレバーを閉の位置にして、チョークを閉じてください。（図２参照）
3. プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）
4. 吸い込み確認後、機械をしっかり押え、スタータグリップを最初の爆発音がするまで数回引いてください。
5. 爆発音がしたらチョークレバーを開の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを徐々に開に戻してください。
6. 始動したら低速のままでしばらく暖機運転をしてください。

暖まっているエンジンの始動

1. スロットルレバーを低速の位置にし、ストップスイッチを始動の位置にします。（図１参照）
2. チョークレバーは開位置にしてください。（図２参照）
3. 燃料タンクがカラでなければ、スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。
4. 燃料がプライマリポンプ内に見えないときは、プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返してください。（目安５～１０回）
5. スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。

エンジン停止

1. **スロットルレバーを低速の位置にし、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にしてください。**（図１参照）
2. ストップスイッチを停止の位置にしてください。
3. 緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。
4. エンジンが停止しないときは、チョークを閉じてください。エンジンは失速し停止します。

※ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図２参照）

基本的な作業方法

⚠ 警告

・刈刃に何かが絡まって動きが止まっても､エンジンは回転し続けます。この場合、必ずエンジンを停止し、絡まったものを取除いてください。
エンジンを停止せず刈刃に絡まっている物を取除くと刈刃が動き出し、ケガをすることがあります。

・常に両手でハンドルを握り、機械を使用してください｡絶対に片手で使用しないでください。

図１

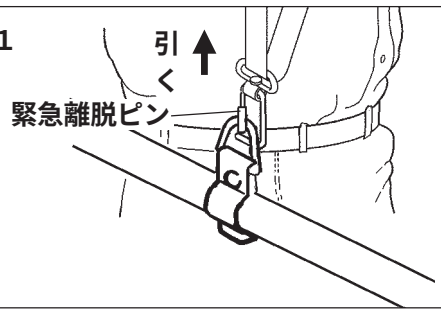


図２



⚠ 警告

・緊急離脱装置が正常に作動するか、確認してください。正常に作動しない場合は、新しいものと交換してください。

・緊急の場合、緊急離脱ピンを上に引き、機械を身体から離すこと。（図１参照）

重要

・刈込みを開始するときには､エンジンを高速回転させてください｡低い回転で刈込むと､クラッチがすべり、故障の原因となります。

・通常作業時は、全開回転で使用せず、刈刃を滑らかに滑らせて中速回転で使用してください。

・刈刃を水に濡らしたまま放置したり､刈刃以外の駆動部（ギヤケースなど）を水没状態にして使用しないでください。また、水で濡らした場合はそのまま放置せず、刈刃を下に向け立て掛け、水を抜いて注油してください。浸水した水は油切れを誘発し､刈刃の摩耗など故障の原因になります。

●フリーネックエッジャーは両手でしっかりと持ってください。
機械を保持するときは、必ずハンドルに親指を掛け､他の指とともにハンドルを囲むように握ってください。

●エンジン始動後、スロットルレバーを高速側にすると､エンジンの回転速度が上がり刈刃が動き始めます｡刈込む畦草などの量によって回転速度を調節してください。

⚠ 警告

・傷害を起こす危険がありますので作業中は危険ゾーンに誰も入らせないでください。危険ゾーンは作業者を中心に半径１５mの範囲です。
・刈刃が動いているときには、絶対にハンドルから手を離さないでください。
・夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。

⚠ 注意

・スロットルレバーを低速位置にしても刈刃が動く場合は、すぐに使用を中止しキャブレタを再調整してください。（１６ページ参照）
・作業中や機械を持ち運ぶときは、火傷などしないように高温部には十分注意してください。
・作業を中断したり移動するときは、必ずエンジンを停止してください。また持ち運ぶときは刈刃カバーをしてください。

重要

刈取り作業を行なわないときはエンジンを空転させないでください。

図１

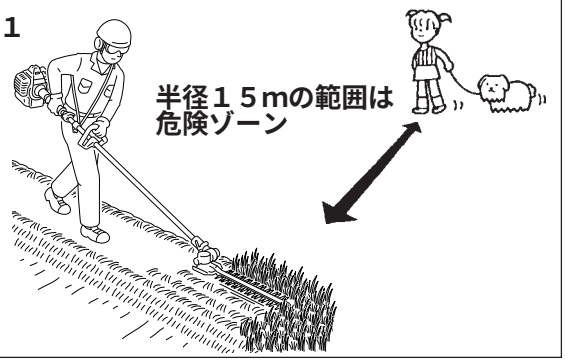


図２

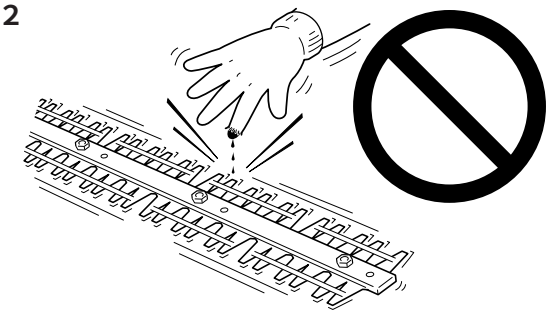


図３



作業上の注意

●機械を中心に半径１５mの範囲に子供や見物人、ペットがいないことを確認してください。（図１参照）
誰かが１５m以内に近づいてきたら、直ちにエンジンを停止し、刈刃を止めてください。
●作業を補助する人、共同作業をする人もお互いに合図のしかたを決めて、１５m以上離れて作業してください。
連絡用に、呼子（笛）を携帯することをおすすめします。
●視界が悪く、暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。雨降り、雨上がり、強風のとき、夜間には使用しないでください。
●機械が突然異常な振動をしたら、直ちにエンジンを停止してください。
突然の振動は、フライホイール、クラッチ、刈刃などの故障や、ネジのゆるみなどが原因です。
機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店に点検と修理を依頼してください。
●エンジンを停止したときは、機械を地面に降ろす前に刈刃が停止したことを確認してください。
エンジンが停止していても、刈刃が惰性で作動中はケガをすることがあります。（図２参照）
●エンジン停止後しばらくの間はマフラ（消音器）も熱くなっていますので、身体に接触させないように身体から離して持ち運んでください。
●刈刃を木などに押し付けたりしないでください。（図３参照）
●枝などが刈刃に絡まったら、必ずエンジンを停止してから、枝などを取除いてください。針金や鉄板など硬いものを切らないでください。故障や事故の原因となります。
●刈刃を自分の方に向けたり、身体に近づけたりしないでください。
●手をのばしたまま、あるいは足元が不安定な場所で機械を使用しないでください。
はしごや台の上で使用しないでください。
●刈刃が障害物にぶつかったり、正常に作動しない場合、エンジンを停止し刈刃に損傷がないか点検してください。

点　検・整　備

⚠ 注意

・点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。（１７ページ図１参照）
・発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。シリンダ内の混合気に引火し、火傷の恐れがあります。

整備の目安

●製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整備の時期	整備個所	整備の内容
使用前	ネジ、ナット	損傷と締まり具合の目視検査
	エアフィルタ	清掃、交換（１４ページ参照）
	燃料フィルタ	清掃、交換（１４ページ参照）
	冷却風通路	清掃（１５ページ参照）
	刈刃	損傷、切れ味、締まり具合の確認
エンジン始動時	スロットルレバー	機能確認（１１ページ参照）
	ストップスイッチ	機能確認（１１ページ参照）
作業４時間毎	刈刃	オイル給油（１６ページ参照）
作業２０時間毎	ギヤケース	グリース注油（１５ページ参照）
１ケ月毎	スパークプラグ	目視点検、必要な場合は交換（１５ページ参照）
長期保管（３０日間以上）	燃料タンク	燃料をカラにする（１７ページ参照）
	ネジ、ナット他	増し締めなど（１７ページ参照）

重要

・エアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
・エンジン冷却風の入り口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますとエンジン焼き付きの原因となります。

図１

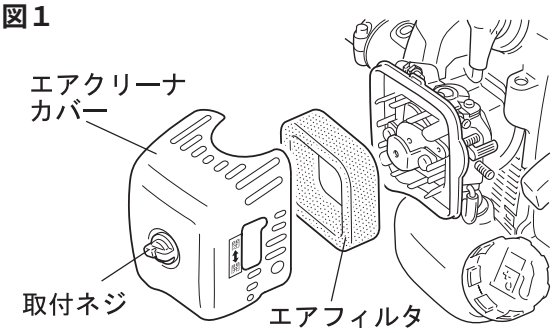
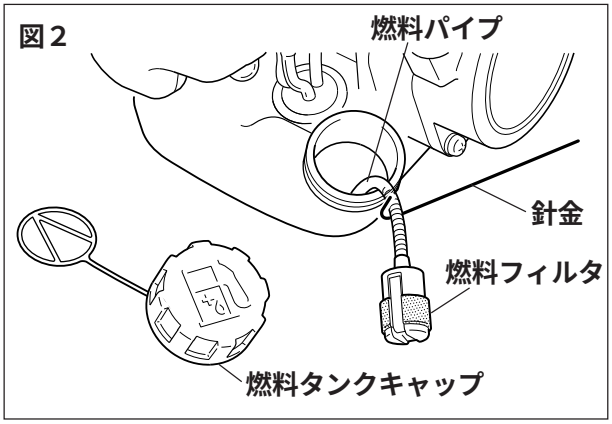


図２



点検要領

エアフィルタの清掃

ご使用前に点検してください。(図１参照)

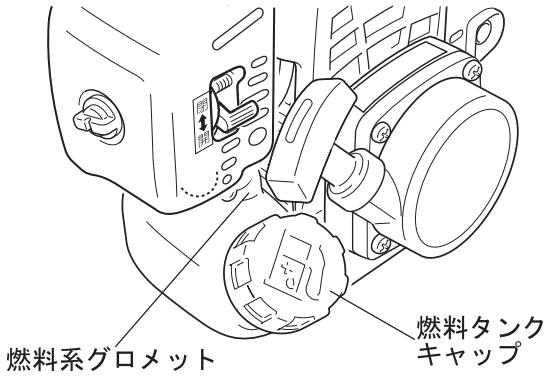
1. チョークを閉じてから、取付ネジをゆるめ、エアクリーナカバーを外してください。
2. エアフィルタを外してください。
3. 汚れをブラシで落とすか、中性洗剤で洗ってください。洗剤を使用した場合は、十分に水洗いをし、よく乾かしてください。
4. エアフィルタを元の位置に取付けてください。
5. カバーを取付け、取付ネジを締めてください。

燃料フィルタの交換

ご使用前に点検してください。(図２参照)

1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などで燃料フィルタを引っ掛け、燃料タンクの給油口から取出してください。
3. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
4. 燃料パイプから抜き取って新しい燃料フィルタと交換します。
5. 燃料タンクの給油口から燃料フィルタを入れて、燃料タンクキャップを締めてください。

図１



燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクガスケット

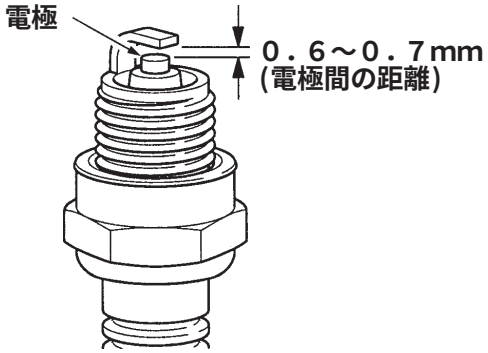
- ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
- 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。
- 燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。
  また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

冷却装置の整備

ご使用前に点検してください。

- シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。（図１参照）
- エンジンの底部と燃料タンクの間にある冷却風の入口の周りに付いた、ゴミなどを取除いてください。

図２



スパークプラグの点検

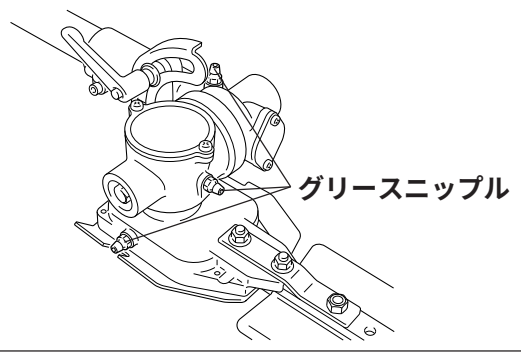
月に一度は点検してください。（図２参照）

1. 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
2. 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm)、または電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。
3. スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
   参考：　締付けトルクは１５～１７N・m
   （１５０～１７０ kgf・㎝ ）です。

マフラの点検

- マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、付属の六角レンチで増し締めをしてください。

図３



ギヤケース

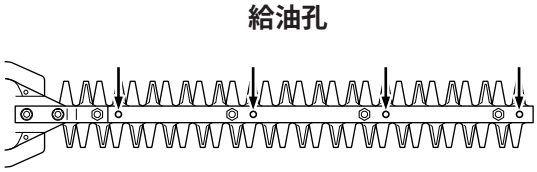
作業２０時間毎に給油してください。(図３参照)

- 純正ギヤケースグリースをグリースニップルからグリースポンプで補給してください。
  純正ギヤケースグリース
  部品番号：Ｘ６９５－００００２０

⚠ 注意

不用意に刈刃に触れてケガをすることがないように手袋をして作業してください。

図１



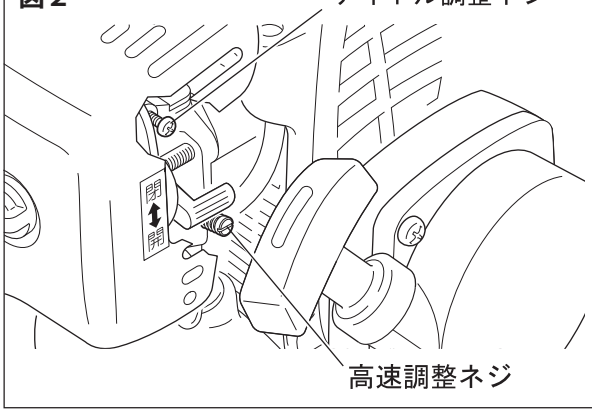
⚠ 注意

アイドリング（低速回転）のときに刈刃が動かないようにキャブレタを調整してください。
思わぬケガをすることがあります。

重要

- **工場出荷時にキャブレタは最高の性能が引出せるよう設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの調整をしてください。**
  1. **エンジンが始動しない**
  2. **エンジンが停止する**
  3. **アイドリング時も刈刃が動いている**
- **スロー調整ネジ、高速調整ネジは締めすぎないこと。強く締めすぎるとキャブレタを破損します。**

図２



刈刃の手入れ

重要

上下の刈刃のすきまは出荷時に刈刃下のボルトで調整してあります。
自分で調整しないでください。

刈刃の清掃

刈刃に樹脂などの汚れが付いた場合は軽油とオイルを１：１の割合で混合したもので、刈刃の汚れを洗い落としてください。

刈刃の給油

作業４時間毎に給油してください。
刈刃を固定しているボルトの部分にオイルを２、３滴たらしてください。（図１参照）
刈刃の刃先が摩耗したり、上下の刈刃のすきまがくるうと切れ味がわるくなります。
その場合、お買い求めの販売店にご相談ください。

キャブレタの調整

キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

スロー調整ネジ

- **アイドリング（低速回転）の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のスロー調整ネジを回して調整してください。（図２参照）**
  スロー調整ネジを右に回して刈刃が動きはじめるところから$1\,{}^{1}/_{2}$回転程度戻してください。

高速調整ネジ

- **燃料と空気の混合割合が適正でない場合は回転不調となります。**
- **回転不調の場合は、高速調整ネジを静かに回して調整します。（図２参照）**
  調整の標準は、高速調整ネジを全閉にしてから、反時計方向に$1\,{}^{1}/_{4}$回転程度戻しです。

調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

故障診断と対策

⚠ 警告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。

●燃料タンクに燃料が入っていること。

●ストップスイッチが始動の位置にあること。

トラブル	故障診断	原因	対策
エンジンが始動しにくい また回転が変動する	オーバーフローパイプに燃料がくる	●燃料の変質 ●キャブレタ不良	●交換 ●販売店へ
	オーバーフローパイプに燃料がこない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタ内部の固着	●清掃か交換（１４ページ） ●販売店へ ●販売店へ
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	●燃料の変質 ●電極の隙間が正しくない ●カーボンが付着している ●電気的障害	●交換 ●交換（１５ページ） ●交換（１５ページ） ●販売店へ
エンジンが始動しない		●電気的障害 ●キャブレタ不良、内部固着 ●エンジン内部の故障	●販売店へ ●販売店へ ●販売店へ
エンジンは始動するが加速できない		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●キャブレタ調整不良 ●排気口／マフラ出口が詰まっている	●清掃か交換（１４ページ） ●清掃か交換（１４ページ） ●販売店へ ●調整（１６ページ） ●清掃
エンジンが停止しない		●ストップスイッチ不良	●応急停止（１１ページ）後、販売店へ
アイドリング状態で刈刃が動く		●キャブレタ調整不良 ●クラッチバネ破損	●調整（１６ページ） ●販売店へ
エンジンが停止する		●キャブレタ調整不良 ●電気的障害	●調整（１６ページ） ●販売店へ

保　　管

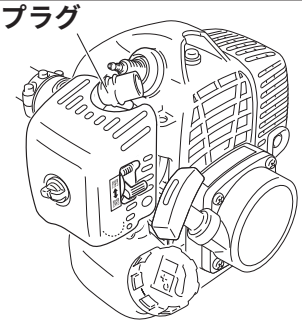
⚠ 警告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

図１



長期保管（30 日間以上）

機械を長期間（30日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

●混合した燃料は完全に使いきり、キャブレタや燃料パイプに残っている燃料も低速で運転して使いきってください。

●機械の外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。

●スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。
ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。

●刈刃には刈刃カバーを付けてください。

●必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図１参照）

●機械を乾かし、子供の手の届かないホコリの少ない場所に保管してください。

●機械が十分冷えてから、エンジン部をビニール袋などに包み保管してください。

仕　　様

項目	単位	型式名	
		FNE2310L	FNE2310L/600
質量 （肩掛けバンド、燃料除く）	ｋｇ	５．４	５．７（集草板を除く）
容量 燃料タンク	L	０．６２	
刈刃 形式 歯車減速比 潤滑剤		バリカン式 4 純正ギヤケースグリース（部品番号：X695-000020）	
長さ	ｃｍ	４０．５	６１．５
外形寸法 長さ×幅×高さ	ｃｍ	１８８×２３×２３	２０９×２３×２３
エンジン 形式 排気量 最大出力時エンジン回転数 最大エンジン回転数 アイドリング回転数 キャブレタ形式 点火方式 スパークプラグ 始動方式 動力伝達方式	 mL r／ｍｉｎ r／ｍｉｎ r／ｍｉｎ	 空冷２サイクル単シリンダ ２２．８ ８，０００ １１，０００ ２，５００～３，５００ ダイヤフラム式 フライホイールマグネト電子点火方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ　iスタート 自動遠心クラッチ	
燃料混合比		[レギュラーガソリン：2サイクルエンジンオイル] ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ、ＦＤ　;[５０：１] ＪＡＳＯ性能分類　ＦＡ、ＦＢ　;[２５：１]	

＊この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　Tel 092-573-5361（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-009 62 2
X750 205-840 2
1105B 0181 ES

© 2007 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。